

English version is [here](#)

Editors:Eric Kokish
 Richard Colker
 翻訳:小林京子

「セブンシティ」セブン

Bd: O-F1-1	NORTH	
DLR: N	♠2	
VUL: None	♥K Q 9 8 4 3 2	
	♦J 9 8 6	
	♣Q	
WEST		EAST
♠K 9 5 4 3		♠A Q 8 7
♥A		♥J 7 5
♦K 3 2		♦A 10 7 4
♣A 10 5 2		♣K J
	SOUTH	
	♠J 10 6	
	♥10 6	
	♦Q 5	
	♣9 8 7 6 4 3	

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
K. Ito	Yomada	Jomura	Takahashi
	3♥	DBL	Pass
4♥	Pass	4♠	Pass
4NT	Pass	5♣(1)	Pass
5NT	Pass	6♣(2)	Pass
6♥(3)	Pass	6♣	All Pass
(1)キーカード2枚と♠Q; (2)♠K (3)まだセブンに関心あり			
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Y. Ito	Tatai	Narita	Hara
	2♠(1)	2NT	Pass
3♥(2)	4♥	4♣	Pass
4NT	Pass	5♣	Pass
5NT	Pass	6♣(3)	Pass
7♣(3)	All Pass		
(1)メジャー5枚以上とダイヤモンド4枚以上、ウィーク (2)トランスファー; (3)♠K			

第1テーブルはNのプリエンティブ3♥で始まり、EWはグラントスラムを狙って見たものの6♣止まり。第2テーブルではNが新しい仕掛けを試す機会に恵まれたが、Eはノートランプで自分の強さを正確に示し、Wもその後のオークションを的確に判断して7♣をビッドした。お見事。

♥10のリードに対し、プレイは簡単。ディクレーターはトランプを狩り、♠Kをキャッシュして13トリックをクレームした。ではSが♠Qを持っていた場合はどうであろうか？7♣はやはり落ちようがない。ディクレーターはトランプを3回狩り、♠KをキャッシュしてからSの♠Qをフィネスする。♦K、クラブ、ハートでハンドに戻り、13枚目の♠をプレイするとNが赤いスートのスクイズにかかる。

教訓。コンベンショナル・オープンを乱用してはいけない。良い7枚スーツを示す前に4枚スーツを伝えてもろくなことはない。セブン絡みの失点となる可能性あり。

チームワークの賜物

Bd: 26	NORTH	
DLR: E	♠8 6 2	
VUL: Both	♥A K 10 7 6 5 3	
	♦4	
	♣10 6	
WEST		EAST
♠K 10 5 4		♠Q
♥Q		♥J 9 8 4 2
♦K Q 8 5 3		♦A J 7 6 2
♣9 5 4		♣3 2
	SOUTH	
	♠A J 9 7 3	
	♥---	
	♦10 9	
	♣A K Q J 8 7	

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Hanayama	Yamada	Hirata	Takahashi
		Pass	1♣
1♦	1♥	4♦	4♣
All Pass			
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Geller	Ino	Ogiwara	Imakura
		Pass	1♣
1♦	1♥	3♥	3♣
All Pass	4♥	5♦	DBL

大内杯フライトA決勝第8ラウンド。第2テーブルでは、Sが4♥に対して4♣とビッドする前にEが5♦とサクリフェイスし、華麗なディフェンスを見せる機会を逸してしまっ。5♦ダブルは2ダウン、マイナス500。

第1テーブルではEが競り合レベルを正しく評価してパス(一部ロー・オフトータルトリックスに基づき、自分たちのサイドはトランプが10枚、NSは8枚と判断)、ディフェンスで本領を発揮した。Wの♦KリードをEは♦Aでオーバーテイクし、ダイヤモンドを続けた。Nはダミーでラフセざるを得ず、♠QをAで捕まえたものの、トランプの2巡目をWが♠10で勝ち、ダイヤモンドを続けてトランプの長いハンドをパンプする。Sは何をしてもWがトランプで3トリック勝つことを防ぐことはできない。1ダウン。日本ナショナルチームが12IMPを獲得した。

重すぎたシングルトン

OUCHI B	NORTH	
DLR: S	♠5 2	
VUL: E/W	♥A J 9 7 5 4	
	♦A Q J	
	♣K 2	
WEST		EAST
♠K Q J 9 7 4 3		♠A 10
♥10		♥Q 8 6 2
♦8		♦K 10 5
♣J 9 4 3		♣A Q 10 7
	SOUTH	
	♠8 6	
	♥K 3	
	♦9 7 6 4 3 2	
	♣8 6 5	

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Asbi	Nagasaka	Sacul	Kito
		DBL	Pass
3♠	4♥		All Pass
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Sato	Colker	Okamoto	Kokish
		Pass	Pass
3♠	4♥	DBL	All Pass

Wはバルネラビリティは悪いが3♣とオープンするハンドを持っている。しかし、どちらのEも、Wがかくも良いハンドを持っているとは信じなかったようだ。双方とも4♣にレイズせずNの4♥にダブルを掛け、手の内にあったプラス650のスコアを逃した。それでもEWがプラス500というスコアを獲得すればまだしも救われる。Eは♠Aをリードしスペードを続ける。ディフェンスに希望の光が見えてきた。

シングルトンを2つも持つことは非常に稀である。このような状況で、シングルトンのトランプでラフをしたいという誘惑に打ち勝つプレイヤーは少ないだろう。まさしく双方のテーブルで同じ事が起こった。Wは♠の2巡目を勝ち、シングルトン♦にシフトしたのである。ディクレーターは♦Aで勝ち、Wの瞬間の夢はここについていた。

ディクレーターは♥Kで♥10をたたき落とし、更にハートを2回続けた。Eが♥Qで勝ち、最後のトランプでエグジット。ディクレーターは♦Jを盗もうとしたが、EはすぐにKで勝ち、♦10を出したのでディクレーターはクラブの2トリックを負けざるを得ず、3ダウンとなった。マイナス500。

一方のテーブルでは、Nが1トリックを稼ぐことに成功した。♦Aを勝ち、♥Jをリードしたのである。Eはカバーしなかったが、関係はなかった。10が落ちたのを見て♦Jをプレイ。Eが♦Kで勝ち、ダミーの♥Kに向けてトランプを打ち込んだが、ディクレーターにはもうすべてがお見通しだった。♦Q、♥Aと続け、♥をEのQに負ける。Eのハンドにはクラブしかなく、ディクレーターの♠Kにトリックを献上する結果となった。2ダウン、マイナス300。インドネシアと北米の混合チームが5IMPを取り、16-6のリード。セカンド・ラウンドの最終ボードに突入したがそこで待ち受けていたのは...

幸運の行方

OUCHI B	NORTH	
DLR: W	♠5	
VUL: Both	♥A K Q 6 2	
	♦8 5	
	♣A K Q 5 3	
WEST		EAST
♠K Q 9 8 6 3		♠7 4
♥J 8 5		♥10 7 4
♦Q 9		♦A K 10 7 4 2
♣7 4		♣9 8
	SOUTH	
	♠A J 10 2	
	♥9 3	
	♦J 6 3	
	♣J 10 6 2	

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Asbi	Nagasaka	Sacul	Kito
2♠	2NT(1)	Pass	3♣
Pass	3♠	Pass	3NT
Pass	4NT(2)	Pass	5♦
Pass	6♣	DBL	All Pass
(1)ストロング・テイクアウト (2)ブラックウッド			
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Sato	Colker	Okamoto	Kokish
2♠	4♣(1)	Pass	5♣
All Pass			
(1)ハートとクラブ、ストロング			

第2テーブルのNSは5♣で止まり、Eがダイヤモンドのハイ・カードを2枚キャッシュしたので結果はジャスト・メイク。

第1テーブルではNSがいささか突飛とも思えるビッドで6♣まで到達。このスラムは明らかに欠陥商品だが、Wにはその欠陥がわからない。スラムがメイクする可能性を否定できないながらも、Eはダブルをかけてダイヤモンドリード要求を試みた。実際にダイヤモンドリードなら大正解だったが、Wの思考は異なる波長をたどっていたらしく、Eのラフを期待してスペードをリードした。プラス1540は14IMPの取りとなり、20-16で水際の勝利を取めたのである。

あるアンダービッドの伝説

簡単な問題を1つ。双方バル、Eで次のハンドを持っているとする。

♠10 8 4	♥A J 2	♦3	♣K J 10 9 6 5
---------	--------	----	---------------

Nがパスし、あなたもパスをする。Sが1♥とオープンし、Wは(ありがたや)2♦とオーバーコールする。ここで6400万円の賞金がある質問。どうすればあなたがディクレーターとなって2♣をプレイすることができるか？

Bd: 13	NORTH	
DLR: N	♠7 3	
VUL: Both	♥8 5	
	♦A 10 9 7 6 2	
	♣8 3	
WEST		EAST
♠K J 9 6		♠10 8 4
♥K 3		♥A J 2
♦K Q 8 5 4		♦3
♣Q 2		♣K J 10 9 6 5
	SOUTH	
	♠A 5 2	
	♥Q 10 9 7 6 4	
	♦J	
	♣A 7 4	

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
N Orihara	Hamaguchi	R Orihara	Nakagawa
	Pass	Pass	1♥
2♦	1NT	2♣	All Pass
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Sato	Colker	Okamoto	Kokish
	Pass	Pass	1♥
2♦	All Pass		

バルネラブルの2♦オーバーコールに賛成しない向きもあるだろうが、実際には双方のテーブルでオーバーコールが入った。第2テーブルでは哀れなWが2♦でもがいたが、マイナス200の失点。

第1テーブルではEが冒頭の不可能な問題を解く答を出した。「友人」の助けもあったようだ。2♦のオーバーコールに対し、Nはおそらくビディングカードを見落としたのであろう。1NTとビッドをした。Eはこの不十分なビッドを受け入れて自分のクラブを2のレベルで紹介し、コントラクトを買った。プラス90、非常に珍しい7IMPの取りとなった。

時には壮大な夢

Bd: 4	NORTH	
DLR: W	♠A K J 2	
VUL: Both	♥5 2	
	♦A 7 6 5	
	♣A Q J	
WEST		EAST
♥10 8		♠9 7 6 5 4
♥J 9 7 6		♥K 4 3
♦8 3 2		♦J 10 9 4
♣10 8 5 3		♣9
	SOUTH	
	♠Q 3	
	♥A Q 10 8	
	♦K Q	
	♣K 7 6 4 2	

TABLE ONE			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
N Orihara	Hamaguchi	R Orihara	Nakagawa
	Pass	Pass	1♥
2♦	1NT	2♣	All Pass
TABLE TWO			
WEST	NORTH	EAST	SOUTH
Sato	Colker	Okamoto	Kokish
	Pass	Pass	1♥
2♦	All Pass		

7NTをビッドしたのは金澤、川原ペアだけであった。残念ながらオークション経過はききそびれたが、彼らの裏に座っていた中国ペア(シ、リュウ)はプレジジョンを使って7♣に到達した。

この対戦では2IMPの差しかつかなかったことになる。

グラントスラムをビッドしたもう1組のペア(水田、加来)のビッドは次の通りであった。

Mizuta	Kaku
NORTH	SOUTH
1♣(ストロング)	2♣
3♣(トランプ?)	3♥(1トップアナー、5枚)
4♥(♥は?)	5♥(AK or AQ)
6♣	7♣

Sはオークションから自分が良いハンドを持っていると確信し、パートナーの6♣に7♣とビッドした。Nはすでにトランプ・アスキングの時点でグラントスラムへの関心を示しており、Sのビッドには十分な根拠があった。

一人勝ち

Bd: 21	NORTH	
DLR: N	♠8 7 3	
VUL: N/S	♥8 7 6 3	
	♦10 8 7 4	
	♣Q 9	
WEST		EAST
♠K Q J 5		♠A
♥K J 10		♥Q 5 4
♦Q		♦A K J 9 5 2
♣J 10 8 7 5		♣A 3 2
	SOUTH	
	♠10 9 6 4 2	
	♥A 9 2	
	♦6 3	
	♣K 6 4	

フライトA決勝戦第7ラウンドの21番ボードはEWペアにとっての難関。スラムをビッドするなら6♦がベストだが難しい。1ペアは6♣をビッドしてダウンし、6NTをビッドしたペア(後藤・中島)はSがクラブのキリング・リードをみつけれられずに6メイクした。

今回の主役はイリングワーズ・柳沢ペア。

ツー・オーバー・ワンをゲームフォーシングに使っているため、Eは強いハンドを持ってゆっくりとビッドを進める余裕があった。このシーケンスはソリッドダイヤモンドを否定しており、Eが6♦へジャンプした後、Wは6♦と6NTの選択を迫られる格好となったが、Wは正しくバスを選択した。ブラボー。